

2014年度 上期 決算説明会

2014年11月20日

株式会社 神鋼環境ソリューション

I 2014年度上期決算

II 2014年度見通し

III 2013~15年度中期経営計画進捗状況

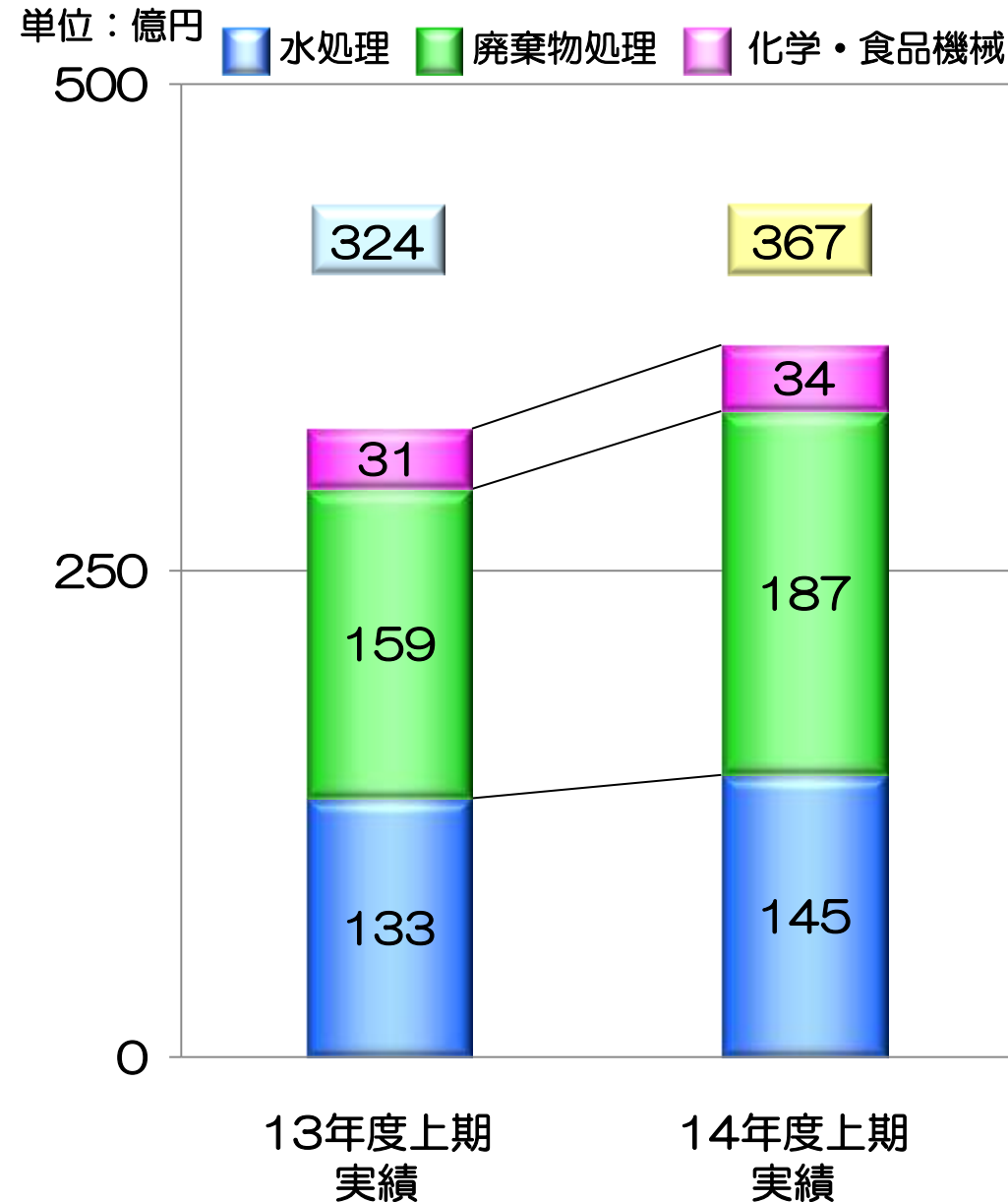
I 2014年度上期決算

◆ I 2014年度上期決算 全体概要（連結）

	13年度上期 実績 ①	14年度上期 実績 ②	単位：億円 差異 ②-①
受注・受託高	324	367	43
売上高	309	271	△ 38
営業利益	9.9	3.4	△ 6.5
《営業利益率（％）》	《 3.2 》	《 1.3 》	—
経常利益	10.7	3.7	△ 7.0
《経常利益率（％）》	《 3.5 》	《 1.4 》	—
特別損益	0.0	0.0	0.0
当期純利益	6.3	1.8	△ 4.5
《当期純利益率（％）》	《 2.0 》	《 0.7 》	—

※受注・受託高は長期運転維持管理業務の受託高を含む

◆ I 2014年度上期決算
セグメント別受注・受託高（連結）



＜前年同期との差異 +43＞

化学・食品機械（+3）
・設備投資需要の回復等により増加

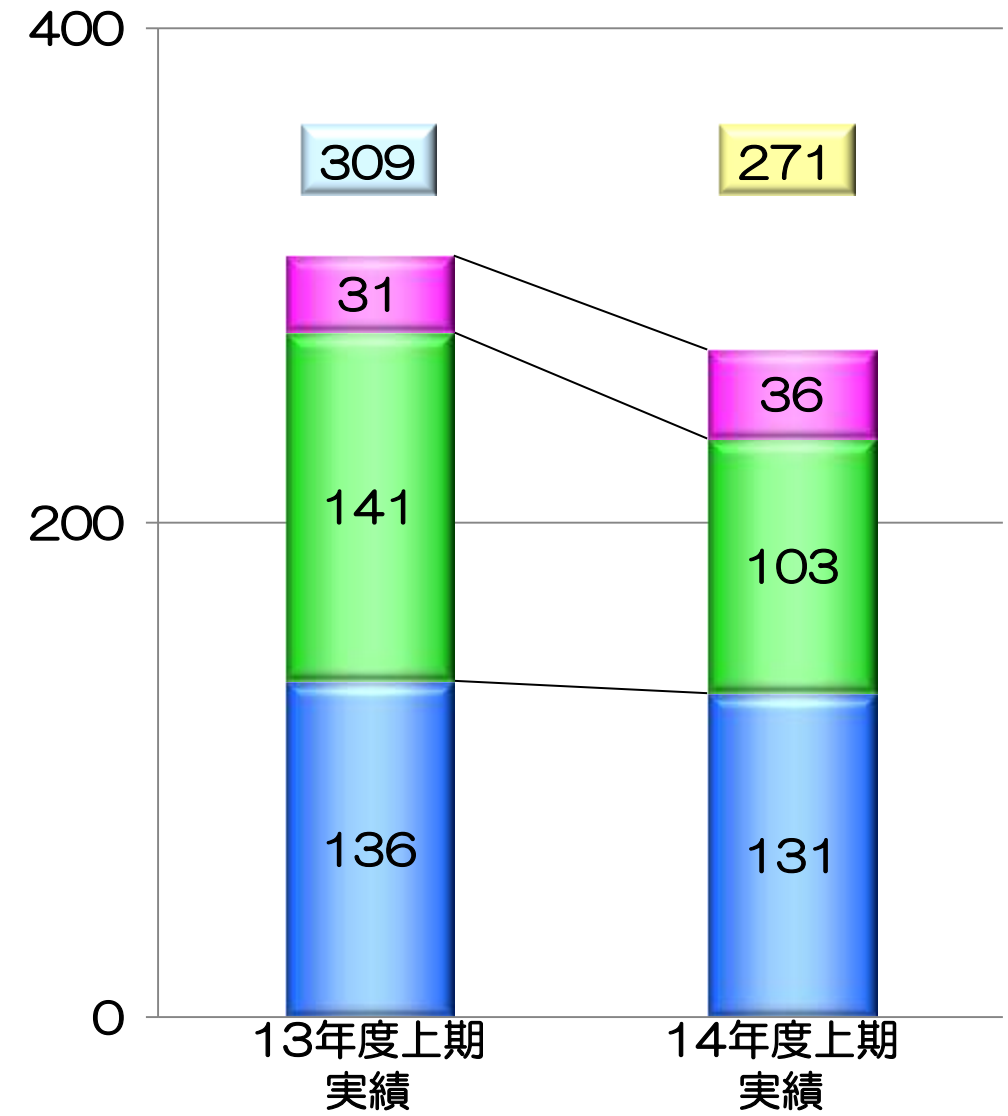
廃棄物処理（+28）
・順調に受注を積み重ねたことにより増加

水処理（+12）
・民需水処理分野及び海外水処理分野にて増加

◆ I 2014年度上期決算
セグメント別売上高（連結）

単位：億円

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械



＜ 前年同期との差異 $\Delta 38$ ＞

化学・食品機械 (+5)
 ・グラスライニング製機器等の既受注案件が順調に進捗したことにより増収

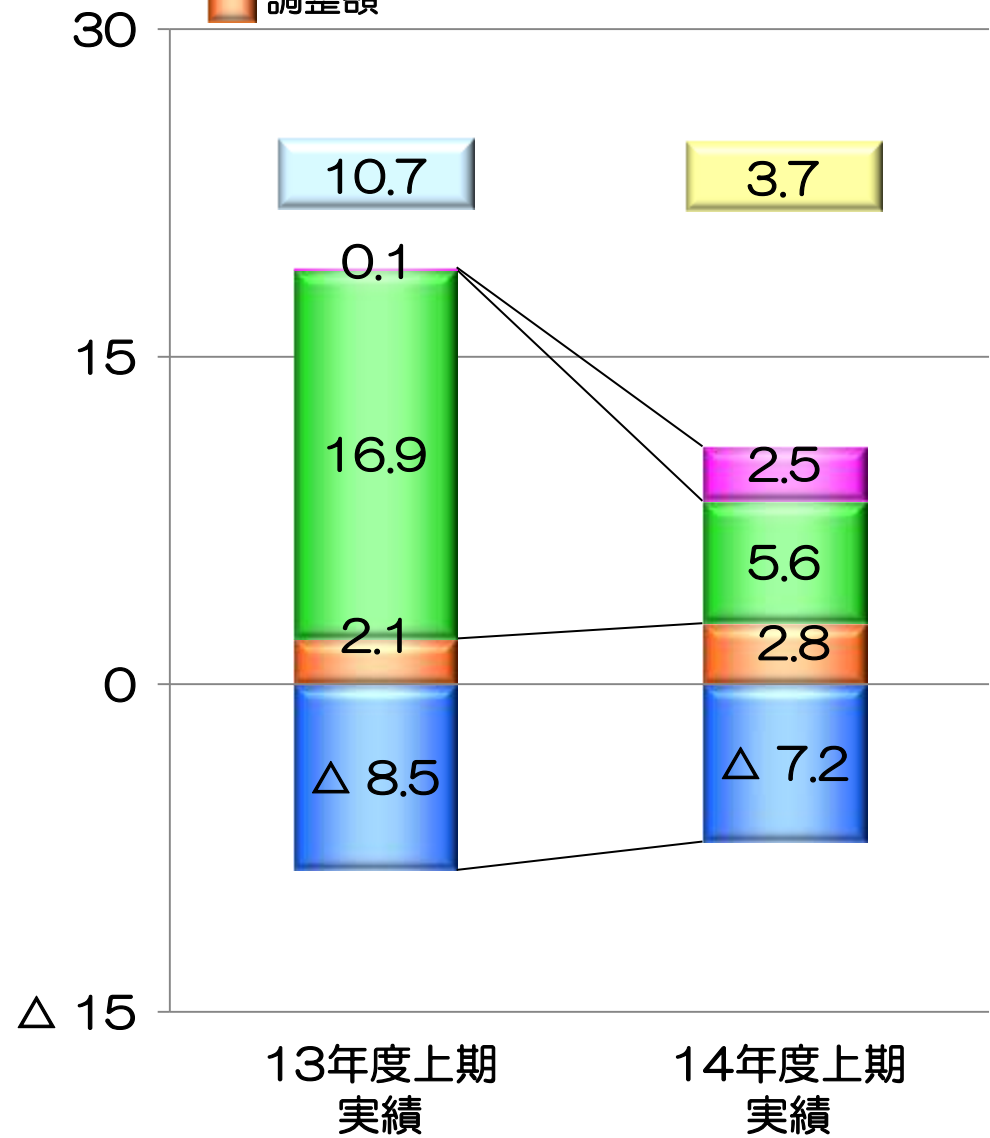
廃棄物処理 ($\Delta 38$)
 ・大型の建設工事が進捗した前期に比べ減収

水処理 ($\Delta 5$)
 ・大型案件の売上計上があった前期に比べ減収

◆ I 2014年度上期決算
セグメント別経常利益（連結）

単位：億円

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械
■ 調整額



＜ 前年同期との差異 $\Delta 7.0$ ＞

化学・食品機械 （+2.4）
・増収影響及び工場操業度の向上等により増益

廃棄物処理 （ $\Delta 11.3$ ）
・大型建設工事が進捗した前期に比べ減益

水処理 （+1.3）
・コストダウン効果があったことなどにより改善

調整額 （+0.7）

◆ I 2014年度上期決算
連結財政状態・配当

		単位：億円	
		13年度 上期実績	14年度 上期実績
総資産		512	462
株主資本	資本金	60	60
	資本剰余金	33	33
	利益剰余金	101	103
	計	194	197
《自己資本比率（％）》		《 38.2 》	《 41.5 》
外部負債残高	短期借入金	51.4	2.0
	長期借入金	2.6	0.6
	計	54.0	2.6
《D/Eレシオ（倍）》		《 0.28 》	《 0.01 》

※中間配当は実施致しません。2014年度期末配当金は9円/1株を予定。

Ⅱ 2014年度見通し

◆Ⅱ 2014年度見通し 全体概要（連結）

単位：億円

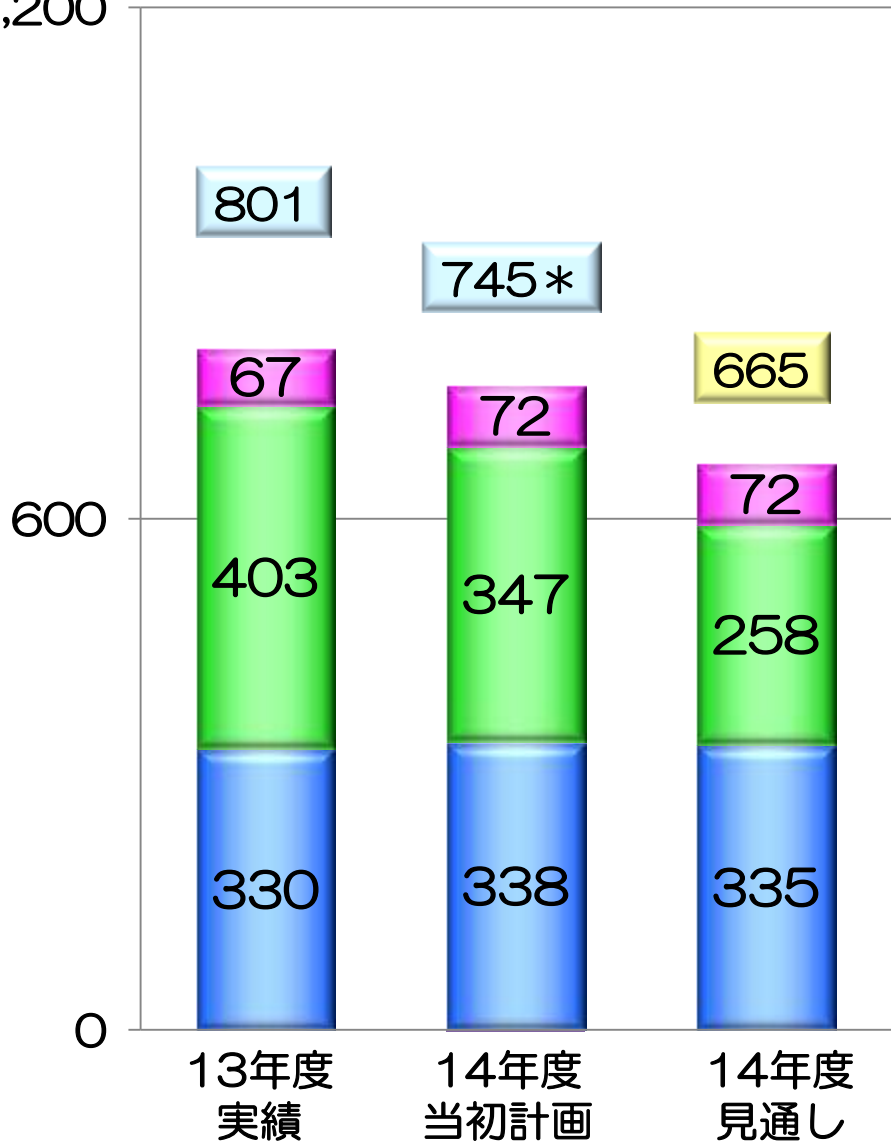
	13年度 実績 ①	14年度 当初計画	14年度 見通し ②	差異 ②-①
受注・受託高	801	745	665	△ 136
売上高	681	675	705	24
営業利益	26.4	23.5	27.5	1.1
《営業利益率（％）》	《 3.9 》	《 3.5 》	《 3.9 》	—
経常利益	26.0	23.0	27.0	1.0
《経常利益率（％）》	《 3.8 》	《 3.4 》	《 3.8 》	—
特別損益	0.0	0.0	0.0	0.0
当期純利益	13.1	13.5	16.0	2.9
《当期純利益率（％）》	《 1.9 》	《 2.0 》	《 2.3 》	—

※受注・受託高は長期運転維持管理業務の受託高を含む

◆Ⅱ 2014年度見通し
セグメント別受注・受託高（連結）

単位：億円
1,200

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械



< 13年度との差異 Δ136 >

< 13年度との主要差異要因 >

化学・食品機械 (+5)
・設備投資需要回復等により増加

廃棄物処理 (Δ145)
・大型のアフターサービス案件を受注した前期に比べ減少

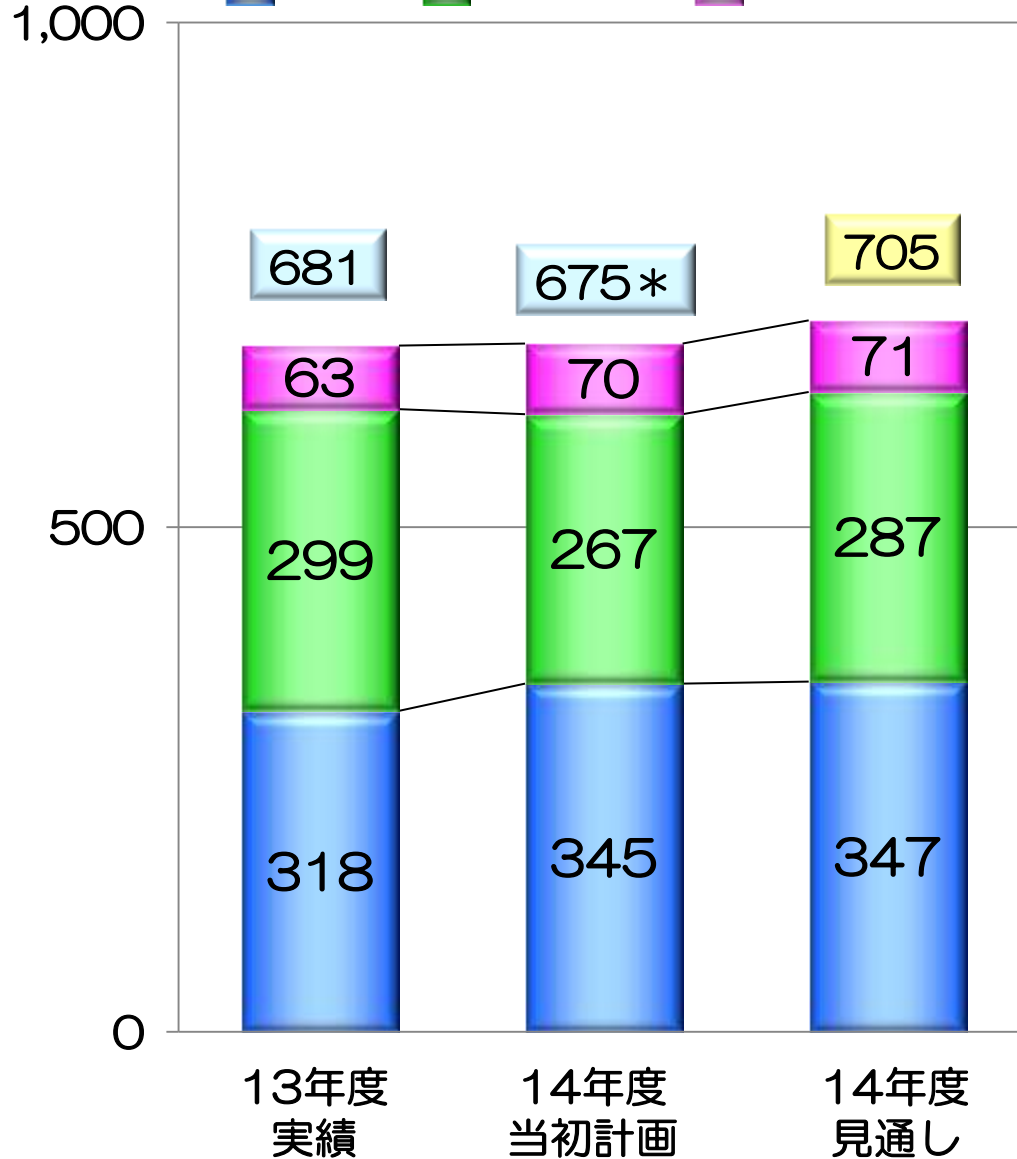
水処理 (+5)
・海外分野にて増加

*14年度当初計画受注・受託高はセグメント間調整額Δ12億円を含む

◆Ⅱ 2014年度見通し
セグメント別売上高（連結）

単位：億円

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械



< 13年度との差異 +24 >

< 13年度との主要差異要因 >

化学・食品機械 (+8)
・設備投資需要の回復等による受注増のため増収

廃棄物処理 (Δ12)
・前年度の大型建設案件が完工した影響等により減収

水処理 (+29)
・官需水処理分野の案件進捗、産業用水処理分野の受注増・案件進捗等により増収

*14年度当初計画売上高はセグメント間調整額Δ7億円を含む

◆Ⅱ 2014年度見通し
セグメント別経常利益（連結）

単位：億円

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械
■ 調整額

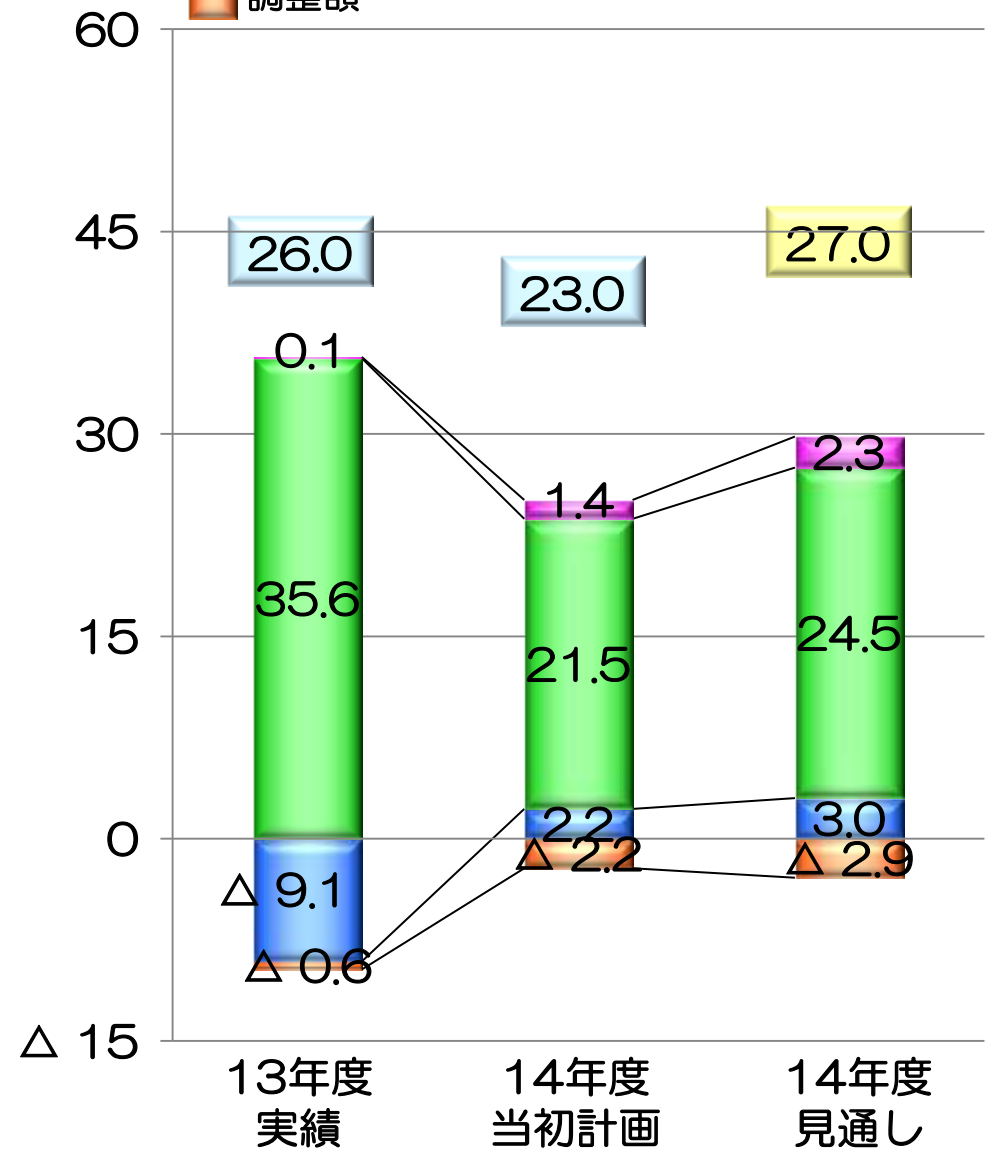
< 13年度との差異 +1.0 >

< 13年度との主要差異要因 >

化学・食品機械 (+2.2)
・増収影響及び工場操業度の向上等により増益

廃棄物処理 (Δ11.1)
・案件構成の変化等により減益

水処理 (+12.1)
・官需水処理分野・産業用水処理分野における増収影響並びにコストダウンにより増益



Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況

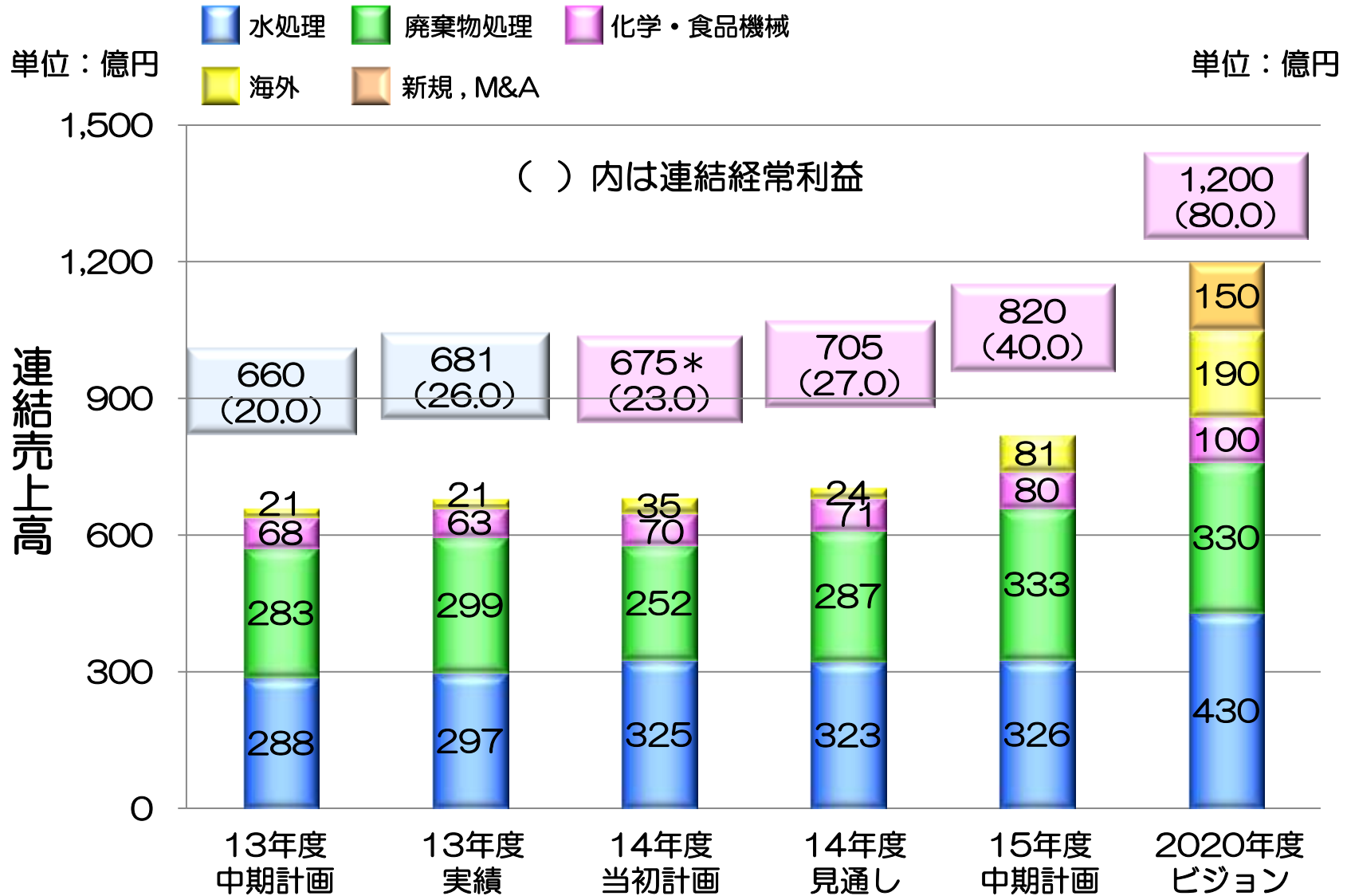
■目指すべき企業像

環境・エネルギー分野で、
特色あるプロセス・ハード/サービスを
提供する存在感のあるグローバル企業となる

■2020年度 数値目標

連結売上高	1,200億円
連結経常利益	80億円

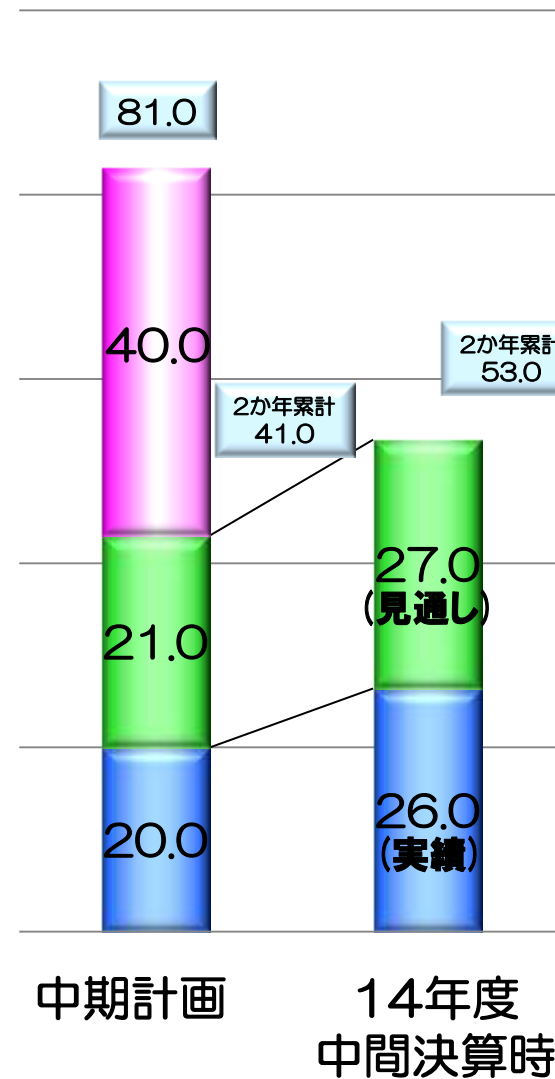
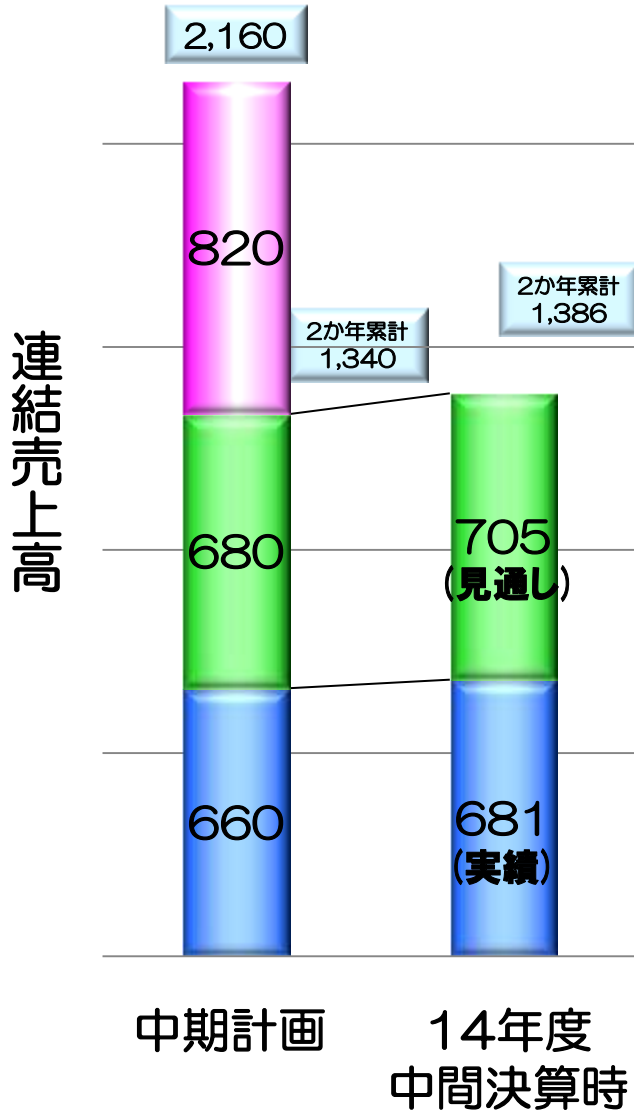
◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画
売上高（連結）、経常利益（連結）



※海外売上高は化学・食品機械分を除く
*14年度当初計画売上高はセグメント間調整額△7億を含む

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画
累計比較

単位:億円 13年度 14年度 15年度 単位:億円



中期計画に対し
順調に推移

国内	共通	再生可能エネルギーの <u>関連需要が拡大</u> 放射能除染・廃棄物処理に関する <u>復興需要が本格化</u> 震災復興本格化に伴い、 <u>工事コストが上昇</u>
	水処理	国内公共投資は <u>低水準で推移</u> 官需では「新水道ビジョン」に続き、「新下水道 ビジョン」が公表され、 <u>事業・技術動向に動きあり</u> (民間活用、技術開発推進等)
	廃棄物処理	機種混合案件が <u>増加</u>
	化学・食品機械	民間設備投資は先行き不透明なるも、 <u>回復の期待感あり</u>
海外	アジア等新興国	景気減速も、インフラ整備は <u>堅調</u> 既進出日系企業の生産拠点への追加投資が <u>加速</u>
	欧州	「EU再生可能エネルギー促進指令」の <u>採択</u> 再生可能エネルギーへのインセンティブにより ガス化溶融炉の優位性が <u>継続 (英国)</u>

①業界でのレベル向上

＜体質改善、競争力強化＞

②海外における成長機会の追求

＜事業規模の拡大＞

③モノだけの価値から、サービスも含めた
価値による事業形成への転換

＜収益最大化・安定化＞

④新規メニュー、新規事業の創出

＜成長と発展＞

①業界でのレベル向上

＜体質改善、競争力強化＞

- 技術の差別化と徹底的なブラッシュアップ
 - ・ 機器の準内作化/ユニット化の推進を継続
- 基幹ハードウェアの拡充
 - ・ 次世代下水汚泥焼却システムの開発を推進
- ライフサイクルコストの低減
 - ・ 徹底したコストダウンの推進
 - ・ 廃棄物発電の高効率化

②海外における成長機会の追求

＜事業規模の拡大＞

ベトナム・東南アジア

- エンジニアリング拠点の拡充
 - ・ ODA案件の取り組み強化とKESV^{※1}のエンジニアリング拠点としての対応力向上
- 生産拠点の拡充
 - ・ グラスライニング製機器製造工場で生産開始
- ビジネスモデルの構築
 - ・ PPP^{※2}案件の推進
 - ・ 工業団地活用型ビジネスへの注力

欧州

- 英国でのガス化溶融炉案件受注に向けた活動強化

※1 KESV : KOBELCO ECO-SOLUTIONS VIETNAM CO.,LTD.

※2 PPP : Public-Private Partnership

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況 ベトナム・東南アジアにおける成果

KESVの取り組み

- 2010年度
 - 11月 KESV 設立
- 2013年度
 - 7月 KESV ハノイ支店開設
 - 9月 カンボジア向け上水設備を初受注
 - 12月 ハイフォン市浄水場向けU-BCF設備(生物接触ろ過設備)納入
 - 1月 ベトナム北部にて工業団地向け水供給設備を受注
 - 設立から着実に実績を重ね、単年度黒字化達成
- 2014年度
 - 6月 ベトナム南部にて工業団地向け総合排水処理設備を受注

工業団地向け案件概要

名称： Phu My3 Waste Water Treatment Plant
(工業団地向け総合排水処理設備)

処理能力： 13,500 m³/日

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況
ベトナム生産拠点の拡充

- グラスライニング製機器の将来的な需要増加に対応
- 当社国内工場におけるトータル生産コストの低減
- 2013年10月 竣工・操業開始

工場概要

工場名： KESV ロンドウック工場

所在地： ロンドウック工業団地内
(ドンナイ省)

工場規模：敷地面積 10,000m²
建屋面積 3,000m²

生産品目：グラスライニング製機器
(反応機、貯槽、熱交換器等)



○ 2014年3月より日本向けに出荷を開始し、順調に操業中

③モノだけの価値から、サービスも含めた 価値による事業形成への転換

＜収益最大化・安定化＞

- DBO案件、長期包括委託案件への対応強化
 - ・ 長期包括委託案件を継続して受注
- 操業データの設計へのフィードバック
 - ・ 操業データの集約/一元管理化が着実に進展
- 定期的な技術&コストローリングによるリスク最小化

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況 メンテナンス事業再編

- 連結子会社との役割分担を見直し、2014年10月1日を期日として水処理関連事業・廃棄物処理関連事業のメンテナンス事業再編を決定
- 設計・施工とアフターサービス一体となった事業運営を新たにスタート

水処理関連事業

- DBO・PFI案件における提案力・技術対応力の強化
- 薬剤・メンテナンス・設備事業の三位一体化による顧客サービスの向上と事業強化

廃棄物処理関連事業

- 大型基幹改良案件への提案活動強化
- 効率的なプロジェクト監理と安全・品質面での工事対応力の強化

◆新規建設案件並びに既設案件（ストックビジネス案件）への提案力を強化すると共に、更に細やかなサービスを顧客に提供することが最大の目的

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況
流動床式ガス化溶融炉

➤ 案件を継続して受注⇒竣工へ ➤ 流動床式ガス化溶融炉国内No.1

- 甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合向け（山梨県）（2012年6月受注）
- ◆ 契約金額 289億円 （20年間運営期間を含む建設・運営一括事業）
- ◆ 高効率ごみ発電施設 369t/日（123t/日×3系列）
- ◆ 2017年3月竣工予定に向け、現在建設中

- 仙南地域広域行政事務組合向け（宮城県）（2014年1月受注）
- ◆ 契約金額 188億円 （15年間運営期間を含む建設・運営一括事業）
- ◆ 高効率ごみ発電施設 200t/日（100t/日×2系列）、最終処分場の延命化
- ◆ 2017年3月竣工予定に向け、現在建設中

- 西秋川衛生組合向け（東京都）
【2014年3月竣工後順調稼働】



- 芳賀地区広域行政事務組合向け（栃木県）
【2014年3月竣工後順調稼働】



④新規メニュー、新規事業の創出 ＜成長と発展＞

- 放射能除染・廃棄物処理関連事業
- バイオマス利活用
 - ・ バイオマス発電
 - ・ バイオ天然ガス化技術
- 木質バイオマス発電事業
- 微細藻類生産技術の確立

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況

放射能除染・廃棄物処理に関する取り組み

- 放射性物質を含んだ下水汚泥の焼却実証事業を2013年度終了（福島県）
- 福島県の汚染廃棄物対策地域内の廃棄物処理業務（減容化处理）
第1号案件を受託※

※案件概要

実施場所：福島県相馬郡飯舘村小宮地区

処理方式：流動床式焼却炉

事業期間：2013年11月～
2017年3月

処理対象物：飯舘村内の屋内
片付けごみ

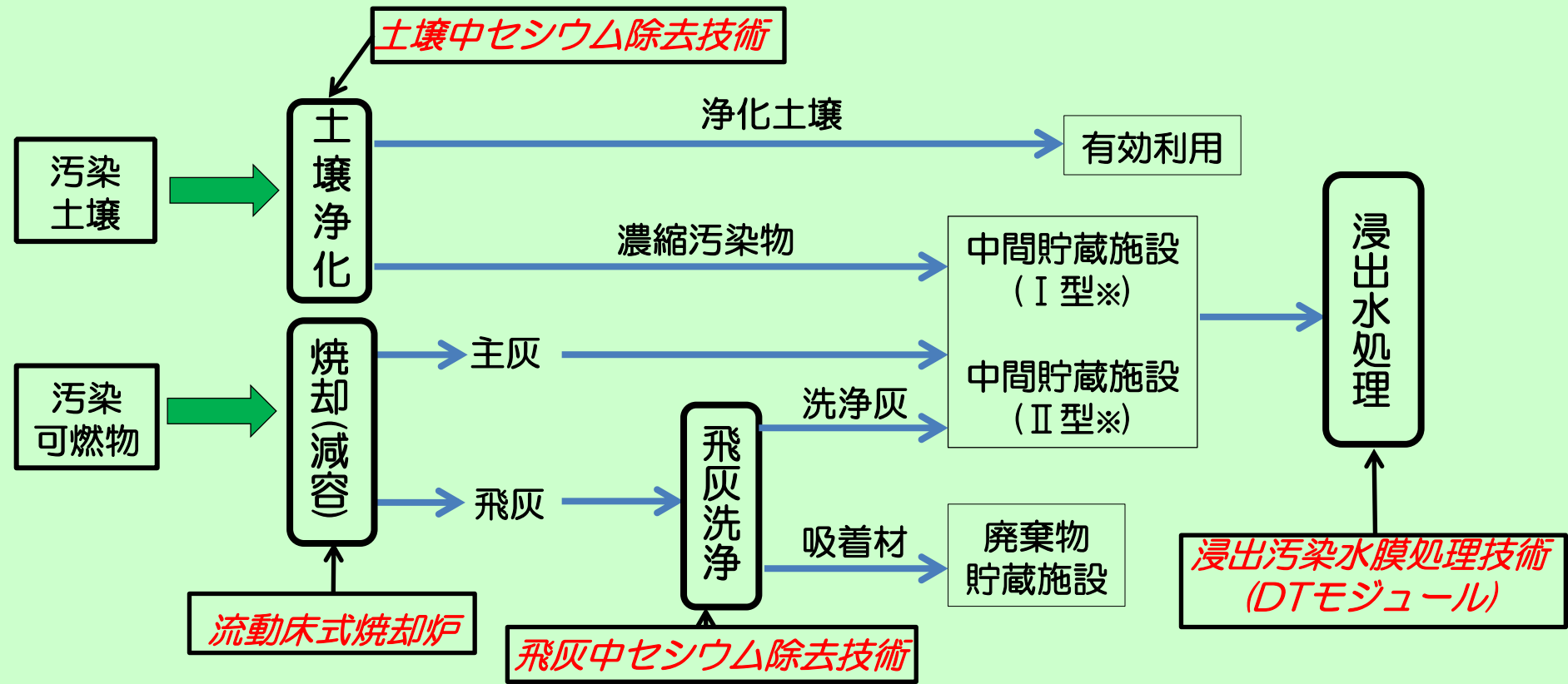
- 特長：
- 幅広い性状の廃棄物に対応でき、片付けごみの処理に適している。
 - 立上げが容易で間欠運転に適している



焼却施設全景

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況
放射能除染・廃棄物処理に関する取り組み

●放射能除染・廃棄物処理フローと当社保有メニュー(朱書部)



※中間貯蔵施設 (I 型)は放射性セシウム濃度が8,000Bq/kg以下の土壌を貯蔵、II 型は8,000Bq/kgを超える土壌、焼却灰等を貯蔵する施設

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況
放射能除染・廃棄物処理に関する取り組み

- 放射能汚染土壌のセシウム除去技術を開発
- 建設予定の中間貯蔵施設に搬入予定の土壌等の除染や減容化に貢献

概要

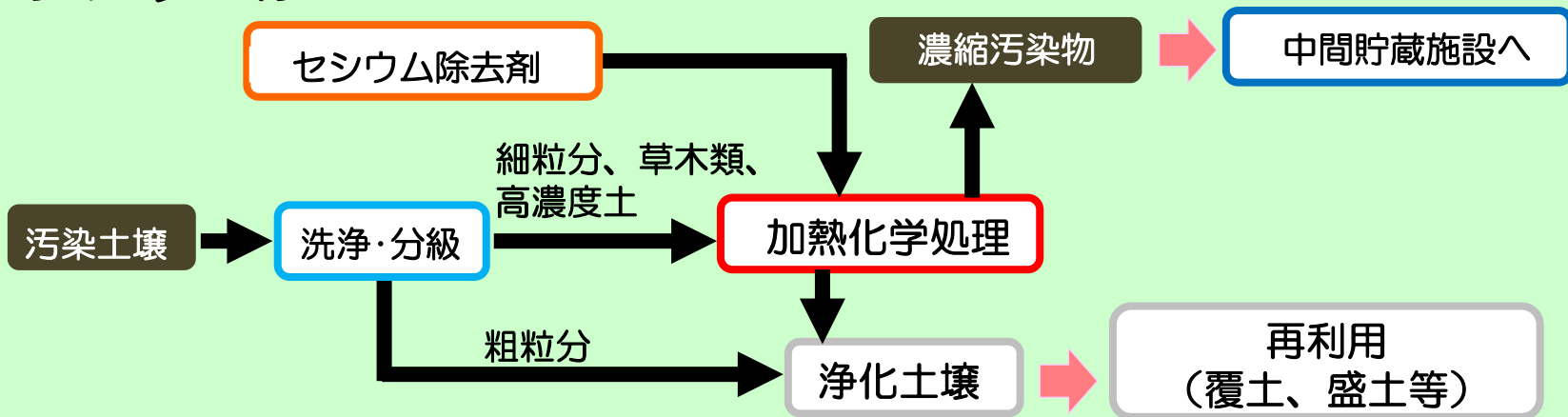
処理方法：セシウム除去剤を添加し、加熱化学処理によりセシウムを除去(除去率最大98%)

対象物：放射能汚染土壌

課題：設備のスケールアップ、浄化土壌の再利用先の確保

現況：実用化に向け鋭意開発中

システムフロー



◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況
木質バイオマス発電事業

➤ 木質バイオマスを原料とした発電事業に着手

2016年4月～ 事業開始予定

発電規模： 6,000 kW級

実施場所： 福井県大野市

発電施設： 流動床式ガス化燃焼炉

原料収集量： 約7～8万トン/年
(間伐材、一般木材 等)

事業主体： (株)福井グリーンパワー

出資比率： 当社 70%
出光興産(株) 10%
九頭竜森林組合 10%
(有)ニューチップ運送 10%

特長： 20年間の固定価格買取が保証
されるFIT制度の認定を取得済み



施設完成イメージ

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況
微細藻類生産技術の確立

- 1m³培養槽において本格培養を開始
⇒大量培養技術を確立
- 従属栄養培養方式で安定的に培養
⇒従来株(ユ-グ ヱ・グ ラリスZ株)との比較に
おいて、2倍以上のバ イオ生産性を確認

現在の活動内容

- 培養条件の最適化を目指し、培養実験を
継続中
- キログラム単位でサンプル提供する体制を
確立
⇒複数のビジネスパートナー候補と協議中
- バイオ燃料、食品/化粧品、下水処理に加え
化成品等での適用を検討中

微細藻類(従属栄養培養)



10 μm

白色の粒状化部分がパラミロン
パラミロンは体の免疫機能をつかさ
どる細胞を活性化させる働きを持つ

☆2015年度には10m³以上の培養槽での培養を計画
(パラミロンの製造設備としては世界最大レベル)

◆将来見通しに関する注意事項

本資料の中には、当社の将来への予測に関する内容が含まれています。これらは、当社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。当社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。